

I-2 アルツハイマー病に対する治療の試み —3者併用療法（アニラセタム +ビタミンE+イチョウ葉エキス）

○櫻井博文，羽生春夫，木暮大嗣，
浅野哲一，岩本俊彦，高崎 優
（東京医科大学老年病科）

【目的】アルツハイマー病に対しては，コリン作動薬をはじめとする多くの薬物が治療薬として開発されつつある。これまでも脳代謝賦活薬をはじめ多くの薬物の効果が報告されているが，いずれも十分なものではない。今回，我々は現状で使用されている薬剤の併用療法の効果について検討したので報告する。

【方法】対象はNINCDS-ADRDAの診断基準にて probable Alzheimer's diseaseと診断された21例である。治療薬として，併用療法群7例（A+E+EGb群）はA（アニラセタム600mg）+E（ニコチン酸トコフェロール600mg）+EGb（イチョウ葉エキス120mg）を，単独療法群14例（A群）はアニラセタム600mgを用いた。約3ヶ月の服薬の前後でMMSE，Raven色彩マトリックス検査（RCPM）を用いて認知障害の経過を調べた。

【成績】A群（14例）は平均3.8ヶ月後，MMSEの平均値が17.9から17.6点，RCPMの平均値が18.1から19.7点となった。A+E+EGb群（7例）は平均3.6ヶ月後，MMSEの平均値が16.0から17.3点，RCPMの平均値が15.7から16.4点となった。MMSEとRCPMの経過において，両群に有意な差は見られなかった。

【結論】アルツハイマー病に対する今回の薬剤併用療法では，単独療法と有意な差はみられなかった。しかし，効果の見られる例があったことから，今後，長期的に併用療法を検討する必要があると思われる。